

風雲急告げる安倍首相 9 月「退任説」

焦点は退任時期と後継総裁、麻生か菅で早期解散

2020/8/26

安倍首相が連日の新型コロナウイルス対策の激務により体調を崩し、ストレスが高じて持病の潰瘍性大腸炎の薬（アサコール）の薬効なく、新たな治療方法（人工透析等）次第では公務の継続が困難視される。すでに首相の連続在任日数が 8 月 24 日に大祖父の佐藤栄作元首相 2798 日を超え歴代トップとなりこれを花道に永田町では種々「首相退陣シナリオ」が流布され、焦点は首相退任の時期と後継総裁（首相）に絞られつつある。

首相連続在任数の歴代トップ「花道」退任論

ある政界筋は「安倍首相の病状は深刻であり、自民党総裁任期の来年 9 月 30 日まで続投することはまず考えられないと、すでに永田町では様々な首相退陣シナリオが流布され、焦点は首相退任の時期と後継総裁（首相）に絞られつつある」と打ち明ける。

安倍首相は 24 日午前、夏季休暇を利用し慶応義塾大学病院を訪れ、日帰り検診を受けた。17 日に続き 2 週連続であり、7 時間半に及んだ前回 6 月 13 日の人間ドックの追加検査は、「実は画像診断、内視鏡・超音波検査を含む『生体検査』であり安倍氏の病状は深刻」（同政界筋）とされる。

実際、5 台の車列を組んで向かった慶応大学病院では 7 時間半ほど病院内に留まり、首相周辺が弁明した「追加検診」、「通常の健康チェック」という言葉では説明がつかない。

菅義偉官房長官は 24 日午前の会見で「毎日お目にかかっているが、変わりはない」と語ったが、「8 月 10 日に 7 カ月ぶりに東京港区ホテル内のジムに行ったのは、持病の潰瘍性大腸炎の薬アサコールの薬効がなく、同ジム内で即効治療を受けた」（同政界筋）という。

さらに、終戦日の 8 月 15 日の全国戦没者追悼式後に恒例の河口湖での夏季休暇を取り止め、東京・富ヶ谷の自宅で盟友の麻生太郎副総理・財務相と差して会い、厳しい病状を伝えたと言われ「重篤説」の可能性が高いという。

明確なのは、安倍首相が連日の新型コロナウイルス対策の激務によって体調を崩し、さらにストレスが高じ、これまで効いていた常薬アサコールの薬効がなくなり、新たな治療法を見出す必要があることだ。

つまり、13 日の 7 時間に及んだ「生体検査」の結果を踏まえ新たな治療法が血液浄化など人工透析等の治療となれば週 2-3 回の通院治療が不可欠となり、事実上、首相の公務継続は不可能となり 9 月「退任説」が現実味を帯びる。

安倍首相の早期「退任説」でもう一つ重要な調整課題となっているのが、「体調不良」が理由ではあまりに「不名誉」と首相自身が考えていることだ。事実、第 1 次安倍政権を投げ出した原因は持病の潰瘍性大腸炎だったことがトラウマとなっているという。

そこで、公職選挙法違反罪で起訴された河井克行前法相の任命責任を第一に考えている可能性がある。いずれにせよ、心身共に疲れ果てた安倍首相の続投意欲は大きく減退、しかも自ら誘致した東京オリンピック・パラリンピックをコロナ・パンデミックにより 10 月にも中止の腹を括ることであれば、来年 9 月の総裁任期切れまで政権浮揚のチャンスはなく、解散総選挙の機会を失う。

いずれにせよ、首相の早期退任説に従えば、安倍首相退任と同時に、閣内後継第 1 位の麻生太郎副総理・務相が首相臨時代理に指名され、その後、日を置かずして自民党衆参院議員総会を開催し、新総裁に同氏が選出されるという。

もっとも、首相自身は後継者として麻生副総理を推しているが、これに対し二階俊博自民党幹事長らは「世論に批判の強い麻生首相では選挙はボロ負けになる」として「菅首相」の意向を示しているようだ。

安倍氏は石破氏だけは後継者に絶対したくないとの強い思いがあり、その思いは麻生、菅両氏も共有しており、菅氏後継説も根強いが、早期の安倍退陣となれば、麻生氏が後継最有力である。

なお、「後継総裁が麻生氏であれ、菅氏であれば、新政権は発足後に立憲民主と国民民主の合体をにらみつつ早期の解散・総選挙に打って出ざるを得ない」（同政界筋）とされ、10 月解散説が再燃しつつある。

9 月サプライズ内閣改造で安倍首相 11 月解散説

ある米系投資家が「安倍首相の健康不安が『重篤説』となって首相『9 月退任説』が流布されると共に米ダウ平均の有力テクニカル分析が 9 月 3 日『天井』、9 月 24 日『底値』予想が 1928 年以降最も下げ易い 9 月相場アノマリーと整合的であり、実際に安倍退陣となれば鬼門 9 月アノマリー通り下落調整局面が予想される」と打ち明ける。

さらに 11 月の大統領選を控える米国では、安倍首相の盟友トランプ氏が苦境に立たされ、民主党副大統領候補に指名されたハリス氏の人気により、バイデン候補の勝利が取り沙汰され、安倍首相にとっては外交面でも高い壁が築かれつつある。

もっとも、ある政界筋によれば、「他方、公務復帰した安倍首相は重篤な状況から回復し、コロナ対策

に全力投球で臨む中で 9 月下旬に予定通り内閣改造・党役員人事を断行し、強力な布陣で政権浮揚を目指し、11 月に安倍首相の手で解散・総選挙に打って出るシナリオもある」という。

その 9 月サプライズ改造人事は、二階俊博幹事長を衆院議長、菅義偉官房長官を幹事長、岸田文雄政調会長を財務相、甘利明税調会長を政調会長、そして麻生副総理・無任所相という「荒業」となる。

そして安倍首相による衆院解散・総選挙を 11 月中に断行するというシナリオであり、その場合、来年夏後に本格的な総裁選を実施し、後継総裁を選出する。

野党側は立憲民主党と国民民主党が合併して自民党に対抗する核ができつつある。追い詰められた安倍首相の周辺が考えついたのが、安倍首相の「体調不良」と、それを押して健気に解散・総選挙に挑戦するというシナリオというのだ。

「安倍総理が、7 月 6 日に首相執務室で吐血した」（週刊フラッシュ 8 月 4 日発売号）。政権中枢の限られた人間しか知ることができない首相「吐血」情報が週刊誌に流されたとすれば、それは解散・総選挙を前提に何らかの意図を持って流布された可能性がある。

事実、「吐血」情報を突破口にして首相周辺から首相の「休みなし」の勤務状態、疲労蓄積の話が沸騰した。首相に近い甘利明・自民党税制調査会長は 8 月 16 日のフジ TV 番組で「(安倍首相は) ちょっと

休んでもらいたい」と首相「疲労蓄積」を訴えるあたりにコロナ過労への悲壮感を醸す狙いがあるという。

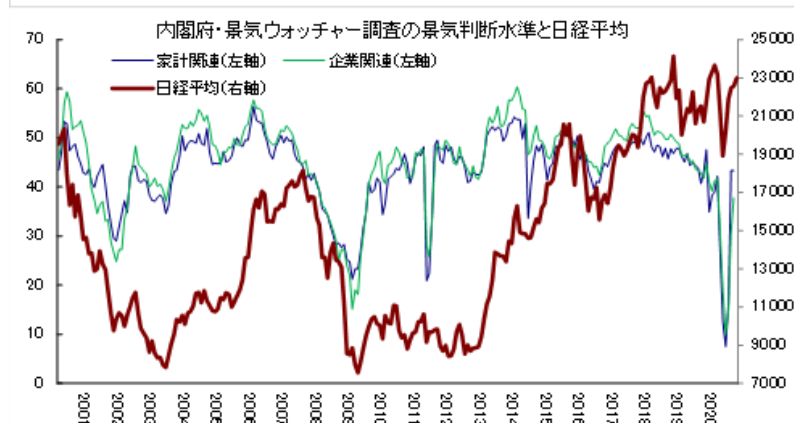
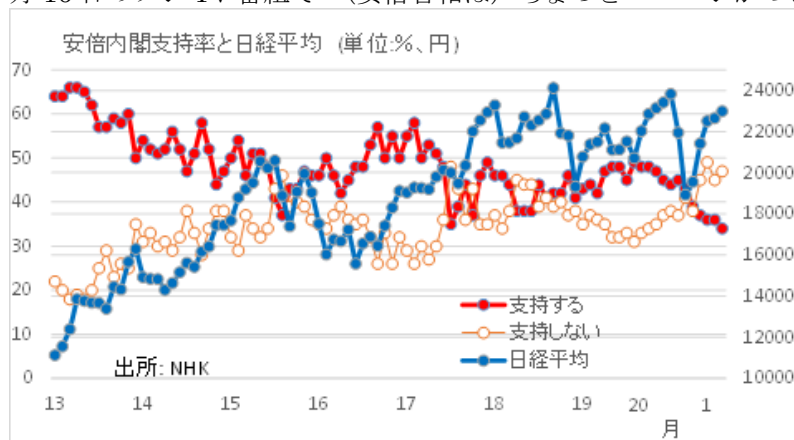
なお、「吐血」情報に尾ひれがついて今や父・安倍晋太郎元外相が患った「膵臓ガン」説が実しやかに流布されつつある。

戦後の日本政治史では、第 55 代首相を務めた石橋湛山元首相が軽い脳梗塞を起こして直ちに辞任、安倍首相の祖父・岸信介氏が後継首相となり、池田勇元首相の場合は喉頭がんを本人にも告知せず側近議員が池田退陣まで隠し通したという。

その意味で、安倍首相による 11 月解散・総選挙説は、政界の常識からは通常考えられないシナリオだが、そこまで自民党は追い詰められていると言える。

なお、安倍政権の政策マンネリ化や成長戦略の欠落などを受け 2013 年以降にアベノミクスに期待し日本株へ投資した海外マネーはすでに今年年初に見切り売った状況にあり、安倍首相の早期退陣でも日経平均がコロナショック時のような急落には至らないとされる。

ただ、ポスト安倍候補の一人とされる麻生副総理・財務相は 08 年 9 月から 09 年 9 月の首相在任時代に日経平均は 15% 下落、リーマン・ショックに対応して財政拡張に努めたが円高を止められず、09 年の衆院選で大敗し、政権交代につながった暗いイメージがつきまとう。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。

ん。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。